

各 位

上場会社名	株式会社 ナガワ
代表者	代表取締役社長 高橋 修
(コード番号	9663)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長 矢野 範行
(TEL	048-648-6111)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,850	1,330	1,380	760	46.46
今回発表予想(B)	10,790	985	1,036	535	32.72
増減額(B-A)	△60	△345	△344	△225	——
増減率(%)	△0.6	△25.9	△24.9	△29.6	——
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	10,225	1,307	1,347	740	45.38

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,200	2,400	2,500	1,400	85.59
今回発表予想(B)	22,000	1,900	2,000	1,030	62.97
増減額(B-A)	△200	△500	△500	△370	——
増減率(%)	△0.9	△20.8	△20.0	△26.4	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	20,712	2,358	2,454	1,346	82.54

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,830	1,250	1,300	720	44.02
今回発表予想(B)	10,785	1,048	1,105	609	37.23
増減額(B-A)	△45	△202	△195	△111	——
増減率(%)	△0.4	△16.2	△15.0	△15.4	——
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	10,216	1,193	1,240	943	57.83

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,150	2,300	2,400	1,350	82.53
今回発表予想(B)	21,990	1,960	2,080	1,130	69.08
増減額(B-A)	△160	△340	△320	△220	——
増減率(%)	△0.7	△14.8	△13.3	△16.3	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	20,718	2,190	2,310	1,531	93.82

## 修正の理由

### (1) 第2四半期累計期間の業績予想

#### 連結

主力のユニットハウス事業においては、ユニットハウス工法による大型の一般建築受注が順調に推移したこと並びに第1四半期に実施した中古ハウスクャンペーンにより粗利益率の高い中古販売が伸長したことなどから販売が好調に推移いたしました。同事業のレンタルにおきましては、シェア拡大を第一優先に備品サービス及び付帯工事サービスを積極的にアピールし、レンタル稼動棟数の確保に努めた結果、数量ベースでは昨年を上回ることが出来ました。しかし、同業者との価格競争の結果、単価が下落し金額ベースでは前年を若干下回り、期初の目標を下回りました。

また、建設機械レンタル事業においては、北海道南部の建設投資が不振を極めるなか、7月に開催された洞爺湖サミット関連工事の受注が貢献したため、ほぼ計画を達成することができました。

建設資材卸事業においては、建設機械レンタル事業と同様に北海道南部の建設投資が冷え込むなか、より採算性を重視した選別受注を継続したことから売上高が計画より減少いたしました。

この結果、売上高につきましては107億9千万円と当初計画を6千万円下回る見込みです。

営業利益につきましては、資材価格の高騰に対して販売価格の改善が追いつかなかったこと並びにレンタル単価の下落と積極的なレンタル資産投入による減価償却費の増加によりレンタル粗利益率が想定以上に悪化したことなどにより、当初計画を3億4千5百万円下回る9億8千5百万円となる見込みです。

経常利益、四半期純利益につきましては、営業利益と同様の理由により、それぞれ当初計画を3億4千4百万円、2億2千5百万円下回る10億3千6百万円、5億3千5百万円となる見込みです。

#### 個別

上記に記載した理由と同様の理由により、前回発表値を修正いたします。

### (2) 通期業績予想

#### 連結

ユニットハウス事業においては、引き続きユニットハウス工法による一般需要開拓とレンタルシェアの拡大を推進する一方、全社的な原価・経費の削減に努めて参ります。また、平成21年1月1日付で九州全域にユニットハウス及びプレハブハウス事業を展開する住重ナカミチハウス株式会社の同事業を譲り受けることにより九州地区におけるユニットハウス事業を一気に加速してまいります。

建設機械レンタル事業及び建設資材卸事業については、引き続き新規優良顧客の開拓と採算重視の選別受注を推進してまいります。北海道南部の建設投資は上期同様、依然として厳しい環境で推移すると思われまます。

これらの状況及び上記第2四半期の業績予想の修正を反映し、下方修正しております。

#### 個別

上記に記載した理由と同様の理由により、前回発表値を修正いたします。

(注) 上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想値と異なる可能性があります。

以上